

煙鎖凝塵四壁空 青燈欲燼夜融融 涼聲度竹風如雨 碎影搖窓月在松 病枕蕭條聞永漏
草堂搖落已深冬 不堪酒醒淒然地 撫景懷人意萬重

【読み】

煙鎖（き）え 塵凝（こ）りて 四壁（しへき）空し 青燈燼（もえのこ）らんとして 夜（よ）融融（ゆうゆう）たり。
涼声竹を度（わた）りて 風雨のごとし 碎影（さいえい）窓を揺（うご）かして 月は松に在り 病枕（びょうちん）蕭
条（しょうじょう）として 永漏（えいろう）を聞き、草堂搖落（ようらく）して 已（すで）に冬深し 酒の醒むるに
堪えず 淒然の地 景（けい）を撫（な）で人を懷（おも）えば 意（こころ）万重（ばんちよう）

【意味】

霞が消え、塵が収まって、四方の壁はがらんと静まりかえっている。青白い灯火は今にも消えそうで、夜はとろけるように、
静かに更けていく。涼やかな風の音が竹を吹き抜け、それはまるで雨の音のようだ。月の碎けた光が窓辺を揺らし、その月は、
松の梢にかかっている。病に伏した枕元はひっそりと寂しく、夜通しの水時計の音が聞こえてくる。粗末な草庵には木の葉
が舞い落ち、すでに冬は深まっている。酒が醒めてしまうことがやりきれず、この物悲しい場所に身を置いている自分。ふ
と景色に目をやれば、懐かしい人への思いが、幾重にも胸に重なっていく。

* 燼…燃え残る。燃え尽きる。 * 融融…静かにとろけるように更けていく夜のさま * 涼声…涼やかな音（風の音や竹の葉が触れ合う音）

* 碎影…碎けた影（月光が葉を通してちらちら揺れる様） * 病枕…病に伏せた枕辺 * 永漏…夜通しの水時計（時を告げる音）

* 揺落…木の葉が落ちて揺れ動くさま * 淒然地…もの悲しく冷え冷えとした場所 * 撫景…景色に触れて（見て心を動かす）

【出典】

冬夜（文徵明・明）

この詩は、病床に伏しながら冬の夜を過ごす文徵明の孤独と感傷を静謐な筆致で描いています。

